

第7回 大和郡山市学校規模適正化等審議会 次第

1. 日 時

令和元年10月29日（火） 午後2時開会

2. 場 所

市議会第1委員会室

3. 案 件

(1) 答申（案）に向けての意見のまとめ

(2) 審議会スケジュール変更案について

(3) その他

答申（案）に向けての意見のまとめ

1. 学校規模適正化検討の背景
 - (1) 学校規模に関する国の標準
 - (2) 大和郡山市の現状（児童生徒数の推移）

2. 学校規模に関する調査結果
 - (1) 学校長アンケートと市民アンケート調査結果
 - (2) 学校視察

3. 学校の適正規模に関する基本的な考え方
 - (1) 1学級あたりの望ましい児童生徒数
 - (2) 1学年あたりの望ましい学級数

4. 適正規模確保に向けた適正配置についての考え方

5. 適正化に伴い留意すべき事項について

資料編

- (1) 諮問書
- (2) 大和郡山市学校規模適正化等審議会委員名簿
- (3) 大和郡山市学校規模適正化等審議会条例
- (4) 審議会開催の経過
- (5) 学校長・市民アンケート調査結果
- (6) 小中学校の児童生徒数・学級数の推移
- (7) 校区図

3 学校の適正規模に関する基本的な考え方

(1) 1学級あたりの児童生徒数についての考え方

◆ 1学級あたりの望ましい児童生徒数

○小学校：1学級 21人～30人

○中学校：1学級 21人～30人

《審議会でこれまでに出された意見》

■小学校

- ・教室環境という意味から、1教室に子どもが机と椅子を並べて座った場合、特に高学年で30人を超えてくると非常に狭い。
- ・「20人～30人」とすると、低学年では、20人まで、3年生では25人、高学年は30人が良い。アンケート結果のように最高で30人が望ましいと思う。
- ・人数の少ない経験をされている小学校も、もう少し人数が多い「21人～30人」を望まれていると解釈している。その中の理由は、あまりにも少なければ役割も限定されるので、もう少し大きな規模で子どもたちに経験の幅を広げたいという理由になっていると思う。

■中学校

- ・中学校では30人が良いと思う。

■その他全般

- ・グループでの学習ということを考えると、6人ぐらいのグループであれば4つぐらいのグループに編成できる、つまり24人というのが学級経営をやっていく者にとっては非常にいろんな形でも編成しやすい。
- ・5、6人のグループというのが、活発に会話できる。それをまとめる幾つかの4つか、5つの班、そのグループの存在というのが、理想だと思う。
- ・児童生徒数について、全体的に少ない方が望ましいという意見であっても、20人は下らないという意見だと思う。

(2) 1学年あたりの学級数についての考え方

◆ 1学年あたりの望ましい学級数

○小学校：1学年 2学級～3学級

○中学校：1学年 4学級～6学級

《審議会ですべてに出された意見》

■ 中学校

- ・臨時免許は、専門の免許を持たれている先生と比べると、実験一つをとっても差があり、子どもたちの経験値にしたらかなり落ちてくると思う。やはり専門的な知識、指導力を持たれた先生の指導が当然望まれる。
- ・免許外の授業をしていただく先生は、自分の持っている免許の指導と新たに知識のない教科を教えるための研修、指導計画と大きな負担になる。
- ・「社会性」という意味で中学校は、クラス替えのメリットは大きし、我々も最大限に活用しながら学年や学級を考えると、クラス替えは必要と思う。
- ・中学校の学級数で「3学級～4学級」があればほぼ全員が選ばれたと思う。授業数で主要教科が週に3時間が多くて、「3学級～4学級」であれば一人の教師が1学年を全部見る事が出来る。成績を評価する上でも平等に付ける事が出来る。5学級以上になると複数人の教師で見る事になる。「3学級～4学級」が授業の運営の意味でも適正だと思う。

■ その他全般

- ・校務分掌が大変というのは、学校の規模の問題というよりも、先生の数の問題なのではないか。小規模であっても先生の数を増やしていけばもう少し対応することもできるのではないか。
- ・子どもによって各々だと思うが、決して少人数だから切磋琢磨できないとか、少人数だからいろんな人と触れ合うことができないかといえ、そうではないと思う。やはり子どもたちが歩いて通うという小学校ならではのことが重要な経験になると思う。
- ・学校長アンケートの中ではクラス替えが非常に重要だという意見が多いことは理解するが、毎年クラス替えが必要と言われると、そうとは思わない。
- ・子どもが学校に通うことが社会で生きていくためのトレーニングという面を持ち合わせているのであれば、いろいろな人とまじわって、かかわっていくという経験も1つの勉強だとは思う。
- ・複数学級でクラス替えができる環境をつくることで、学習面とか生活面とかの刺激ある学校の生活を送ることができると思う。その他クラスが増えることによって人間関係の固定化を防いで心機一転できたりとか、新しい友達とかができたりとか、その子たち

と楽しく遊んだり、はたまた競い合ったりして、いわゆる人としての向上性につながっていくと思う。

- 言いたいことも言えずにどんどんふさぎ込んでしまうというデメリットを考えれば、当然、変わることに伴うデメリットもあると思うが、そういう中で少しずつ成長していてももらえれば良いと思う。
- もう逃げ道がないという子が出た時、クラス替えで救われる事がある。
- 先生と保護者の信頼関係が崩壊したがゆえに2年持ち上がり制が1年制に変わっていくという学校が増えてきている。
- 市民のアンケートを見ると「21人～30人」で、クラス数は「2学級～3学級」が大半で、親の希望が表れていると思う。
- 学校側からこの人数がこの学級数が教師としていいので有れば、実際にプロの現場から上がってきた声なので、“絶対にそんな事は無い”とは思わない。
- 1学年の学級数も、1学級でいいところもあるが、やはり複数学級があるほうが望ましいというご意見が自由筆記にも多いという感じがする。
- 学校教育の工夫や教師の意識によって、小さい集団の中でクラス替えは無いが人間関係を作っていく事が地域に合った教育では必要である。学校の運営からして、決してクラス替えに頼っている訳ではなく、公立学校は、特に集団の中で人間関係を修復する事が必要であると考えます。
- 部活動に関しては、校区外の進学も認められている。比較的やりたいスポーツができる環境は整っていると思う。

4 適正規模確保に向けた適正配置についての考え方

《審議会でこれまでに出された意見》

- ・校区の見直しについては、こういう点も留意して次の段階で審議してくださいとか、自由選択できるような形にするというようなことも、一つの手法として答申の中へ盛り込んでいくことはできる。
- ・小中一貫校について、7割以上の校長が、「そう思う」「ややそう思う」と答えた背景には、教育環境の改善の方向性としてそういうものがある、関心を持っているというところだと思う。
- ・小中一貫校等、新しい形態の学校にこれだけの関心がある方がおられるのは関心を持つ必要があると思う。ただ、審議会としてはこの内容について一つの方向性を持って議論するのではなく、幅広くその中の一つの検討課題と受け止めて頂きたいと思う。
- ・義務教育学校は一つの学校なので、校長1人、教頭1人だが、小中一貫校は、例えば3校であれば、3校それぞれに管理職の方がおられる。一つの職員確保として、管理職の方が現場に入るとするのはどうかとは思いますが、緊急事態に備えるという意味では1つの方法ではあると思う。いろんなどころでの余裕の生み方というのか、適正に先生方を配置していただいても、こういう事態が起こるのあれば、もう少し幅を持った先生の配置を考えていただけたらいいと思う。

《 参 考 》

学校の適正規模等に関する市民アンケート（抜粋）

問17 今後、さらに児童生徒数が少なくなることが想定されます。これからの大和郡山市における活力ある学校づくりに向けて、どのように検討を進めていくことがよいと思いますか。

1. 現在の学校数のままでよい
2. 通学区域を見直して、適正な児童生徒数を確保する
3. 学校を統合し、適正な児童生徒数を確保する
4. 小中一貫等、新しい形態の学校を設置する

5 適正化に伴い留意すべき事項

《審議会でこれまでに出された意見》

- ・適正規模を考えていく中で、配置を考えた場合、通学距離の問題が発生する事を指摘しておく必要がある。対策としては、スクールバスが考えられるが、解決方法としてどの様にするのが望ましいと言うところまでは、この審議会では求めているとは思わない。
- ・通学距離の問題と、通学区域を見直してまで適正な生徒数を優先する、この数値の結果を見て、その部分について審議会として見解を示すことは非常に大事なことだと思う。
- ・通学安全、通学距離、負担というような点は避けて通れないと考え、これをきちんと留意事項の中に明記していくべきであろうと思う。これを放置したまま、学校の適正配置や適正規模を論じることは許されないだろうと考える。
- ・治道小学校程ではないが、地域の方との結びつきというのは、どの小学校も伝統的に行っているものが多い。おそらく地域で何もやっていないという学校はないと思う。
- ・通学の安全確保というのも小規模校では隠れた問題。親、地域の協力なくしてはできない課題という認識を持っている。
- ・地域との交流というのは、学校を支えていく一つの大きなものだし、地域の人に支えられているからこそその学校であると思うので、地域の声や思いを学校で受けとめるというのは、大切なことだと思う。
- ・何かきっかけがあれば、やはり学校の中に行ってみないと何が必要かわからないこともあり、学校の中に入るきっかけをつくっていただきたいと思います。

大和郡山市学校規模適正化等審議会 スケジュール(変更案)

	時期	審議会 議題 (視察含む全8回)
平成 30 年度	6月	第1回審議会 (内容) ・委員の委嘱又は任命 ・教育長あいさつ ・委員の紹介 ・会長、副会長の選出 ・教育委員会からの諮問 ・学校規模適正化等審議会の傍聴に関する規則について ・開催スケジュールについて ・学校を取り巻く現状について
	8月	第2回審議会 ・視察について ・校長へのアンケート(案)について
	11月	第3回審議会 ・視察(治道小学校、郡山東中学校)
	1月下旬	第4回審議会 ・視察報告 ・学校長へのアンケート調査結果について ・市民へのアンケート(案)について
令和 元 年度	5月中旬 ～下旬	第5回審議会 ・市民へのアンケート結果について ・学校長・市民アンケート結果のまとめ
	8月上旬	第6回審議会 ・新学習指導要領の目指す教育について ・市民アンケートについての意見交換 ・答申の構成(案)について
	10月下旬	第7回審議会 ・答申(案)に向けての意見のまとめ ・意見交換
	12月下旬	第8回審議会 ・学校規模適正化等審議会答申(案)について ・意見交換
	2月上旬 ～中旬	第9回審議会 ・学校規模適正化等審議会答申(案)について ・意見交換 →教育委員会へ答申書の提出

